

鹿児島湾から得られたイズヒメエイ *Dasyatis izuensis* (エイ目：アカエイ科)

著者	荻原 豪太, 吉田 朋弘, 本村 浩之
雑誌名	Nature of Kagoshima
巻	35
ページ	63-66
別言語のタイトル	A first record of <i>Dasyatis izuensis</i> (Rajiformes: Dasyatidae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan
URL	http://hdl.handle.net/10232/18075

鹿兒島湾から得られたイズヒメエイ *Dasyatis izuensis* (エイ目:アカエイ科)荻原豪太¹・吉田朋弘²・本村浩之³¹ 〒 890-0065 鹿兒島市郡元 1-21-30 鹿兒島大学総合研究博物館 (水産学研究科)² 〒 890-0056 鹿兒島県鹿兒島市下荒田 4-50-20 鹿兒島大学水産学部³ 〒 890-0065 鹿兒島市郡元 1-21-30 鹿兒島大学総合研究博物館

■ はじめに

アカエイ科は世界で7属約70種、日本近海からは3属15種が有効種として知られており、その内、日本に分布するアカエイ属はヤジリエイ *Dasyatis acutirostra* Nishida and Nakaya, 1988, アカエイ *D. akajei* (Müller and Henle, 1841), オナガエイ *D. bennetti* (Müller and Henle, 1841), イズヒメエイ *D. izuensis* Nishida and Nakaya, 1988, ヤッコエイ *D. kuhlii* (Müller and Henle, 1841), シロエイ *D. laevigatus* Chu, 1960, ホシエイ *D. matsubarai* Miyoshi, 1939, ツカエイ *D. sephen* (Forsskål, 1775), ウシエイ *D. ushie* Jordan and Hubbs, 1925, カラスエイ *D. violacea* (Bonaparte, 1832), およびズグエイ *D. zugei* (Müller and Henle, 1841) の11種が知られている (Aonuma and Yoshino, 2002; 西田, 2006). イズヒメエイは、伊豆半島沿岸から採集された標本に基づき新種として記載され、現在では伊豆半島、高知県以布利、房総半島、有明海から報告されている (Aonuma and Yoshino, 2002; 吉満・山口, 2004).

2007年7月25日に鹿兒島湾南方に位置する知林ヶ島沖の定置網において、イズヒメエイと同定される標本が1個体採集された。この標本は鹿兒

Ogihara, G., T. Yoshida and H. Motomura. 2009. A first record of *Dasyatis izuensis* (Rajiformes: Dasyatidae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 35: 63–66.

☑ GO: Graduate School of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan (e-mail: go.synanceiidae@gmail.com); TY: Faculty of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan (e-mail: sp8245s9@rhythm.ocn.ne.jp); HM: The Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp)

島県における初記録となるため、ここに報告する。また、本研究の調査中に *D. izuensis* のパラタイプ1個体の所在が不明であることが判明したため、合わせて報告する。

■ 材料と方法

計数・計測方法は Compagno and Roberts (1984) に従った。計測はデジタルノギスとディバイダーを用いて0.1 mm単位まで行った。生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影されたカラー写真に基づく。また、比較のために静岡県沼津産の標本1個体を用いた。本報告に用いた標本は、鹿兒島大学総合研究博物館 (KAUM: Kagoshima University Museum) と北海道大学総合博物館 (HUMZ: Hokkaido University Museum) に保管されている。また、本研究で参照した水中写真は、神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真資料データベース (KPM-NR) に登録されている。

■ 結果と考察

イズヒメエイ (Figs. 1–2; Table 1)

***Dasyatis izuensis* Nishida and Nakaya, 1988**

標本 KAUM-I. 5388, 雌, 1個体, 体盤幅 369.1 mm, 鹿兒島県指宿市知林ヶ島沖 (31°16'38"N, 130°40'18"E), 水深 25 m, 2007年7月25日, 定置網, 折田水産。

記載 計数値と体各部の体盤幅に対する割合は表1に示す。体盤は菱形で、円滑。最大体盤幅は体盤前方の約1/3の位置にあり、体盤長の1.1倍。吻はわずかに突出し、前縁がやや丸い。吻長が体盤幅の0.2倍。口はやや小さく、体盤長の0.1



Fig. 1. Dorsal view of *Dasyatis izuensis*. KAUM-I. 5388, mature female, 369.1 mm disc width, off Chiringajima Island, Kagoshima Bay, Japan.

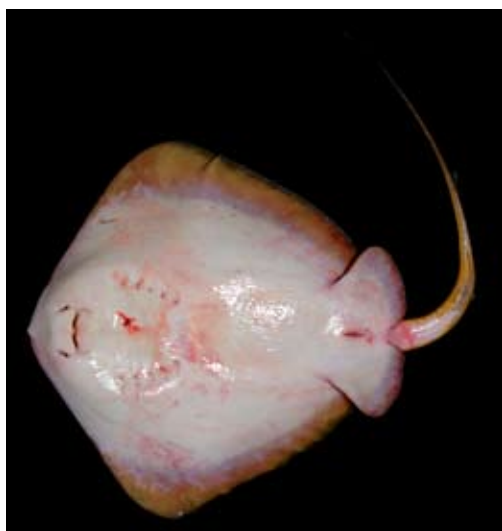


Fig. 2. Ventral view of *Dasyatis izuensis*. KAUM-I. 5388.

倍。口内底に5本の乳頭状突起を有する。腹鰭は胸鰭後端を大きく超える。尾部は細短く、体盤長の1.1倍、断面は円形に近い。尾部背正中線上に小棘がある。尾部側面に尾部後端まで続く隆起が

ある。尾部背正中線上と尾部腹正中線上に皮褶がある。鋸歯縁をそなえた2本の尾棘は、内側（後方）棘より外側（前方）棘の方が大きい。結腸螺旋弁数は18。

体色 生鮮時の体色：体盤背面は黒褐色の後端縁辺を除いて一様に金茶色。体盤腹面は白色で後方は褐色で縁取られ、その内側は灰色。腹鰭腹面は後端を除いて白色で、後端は褐色でその内側は灰色。尾部背面は体盤背面より茶色の濃い金茶色。尾部腹面の前方は白色で、前方の白色域の後方は金茶色で、尾部先端にいくにつれて濃い金茶色になる。尾部腹正中線上にある皮褶は白色。

固定後の体色：体盤背面は黒みの強い茶色の後端を除いて一様に亜麻色。体盤腹面は暗褐色の後端を除いて一様に黄色みがかかった白色。その他は生鮮時の体色と同様。

分布 本種は、房総半島（Aonuma and Yoshino, 2002）、伊豆半島（Nishida and Nakaya, 1988; 青沼・

吉野, 2000; Aonuma and Yoshino, 2002), 以布利 (青沼・吉野, 2000; 西田, 2001; Aonuma and Yoshino, 2002), 有明海 (吉満・山口, 2004), および鹿兒島湾 (本研究) に生息することが確認されている。これまで国外からの報告はないが, 日本における分布地は黒潮の影響を強く受ける場所であることから, 黒潮流路にあたる台湾や東シナ海にも分布している可能性が高い。

備考 本標本は, 尾部腹正中線上の皮褶が尾部末端に達しない, 尾部背正中線上と尾部腹正中線上に皮褶がある, 尾部背正中線上に小棘がある, 尾部腹正中線上にある皮褶が白色でその長さが体盤幅の 29.8%, 吻端がわずかに突出し軽く尖る, 吻長が体盤幅の 17.4%, および結腸螺旋弁数が 18 であることなどの形質から *Dasyatis izuensis* と同定された (Nishida and Nakaya, 1988, 1990)。

本種および本種と考えられる個体の写真 (主に水中写真) は, 日本各地からネット上で報告さ

れており, 特に伊豆半島東岸からの観察例が多い (KPM-NR 6007, KPM-NR 6064-6066, KPM-NR 10222, KPM-NR 15176, KPM-NR 50090)。しかし, 標本に基づいた報告は伊豆沿岸から 8 個体 (Nishida and Nakaya, 1988), 高知県以布利から 3 個体 (西田, 2001), 有明海から 2 個体 (吉満・山口, 2004) ときわめて少なく, 本報告が鹿兒島県からのイヅヒメエイの標本に基づく初めての記録となる。

Dasyatis izuensis は Nishida and Nakaya (1988) によって伊豆半島産の 8 標本に基づいて記載された。7 個体のパラタイプのうち, HUMZ 105476 は原記載では体盤幅 367.5 mm と記載されているが, 実際に本研究で調査したところ, 体盤幅が 465.0 mm であった。原記載と実際の標本の体盤幅が 10 cm も異なるため測定誤差の可能性はきわめて低い。Nishida and Nakaya (1988) は HUMZ 105476 の標本写真 (fig. 4) を掲載しており, 同写

Table 1. Counts and measurements of *Dasyatis izuensis*, expressed as percentages of disc width.

	This study KAUM-I. 5388 Kagoshima Non-type female	This study HUMZ 105476? Shizuoka? Paratype? female	Nishida and Nakaya (1988) HUMZ 105476 Shizuoka Paratype female
Counts			
Oral papillae	18	19	19
Intestinal valve turns	5	5	5
Disc width (mm)	369.1	465.0	367.5
Measurements			
Total length	194.7	163.3	159.7
Disc length	91.8	85.7	87.4
Eyeball length	4.7	6.1	4.8
Cornea	4.5	3.8	3.1
Interorbital width	12.5	11.5	10.9
Spiracle	6.1	7.3	6.3
Interspiracular width	18.5	18.3	18.3
Preorbital snout length	17.4	15.4	14.1
Preoral snout length	18.3	15.1	16.0
Nasal curtain length	5.7	5.3	5.4
Internarial width	9.6	9.5	9.0
Mouth width	9.5	10.7	8.9
1st gill slit	3.1	4.3	3.1
5th gill slit	2.4	2.7	2.4
1st interbranchial width	21.6	23.4	21.6
5th interbranchial width	13.5	14.1	13.6
Prebranchial length	29.3	25.2	25.1
Head length	43.5	40.4	37.7
Precloacal length	79.5	77.6	78.0
Snout to greatest width	42.5	37.7	33.2
Cloaca to pelvic fin tip	12.7	12.1	19.0
Tail width	7.7	6.3	6.7
Tail depth	5.0	4.5	4.6
Tail length	105.4	79.4	—
Prespine length	121.3	113.1	111.5
Dorsal tail keel length	10.8	11.4	13.9
Ventral tail fold length	29.8	29.2	26.0

真中のスケールバーから写真個体の体盤幅を推定すると約 350 mm であった。これは Nishida and Nakaya (1988) の記載 (HUMZ 105476, 体盤幅 367.5 mm) とほぼ一致する (Table 1)。さらに、原記載中の写真個体は、体盤の左側後端に寄生虫か皮膚疾患による小瘤が認められるが、本研究で調査した HUMZ 105476 とされる標本にはこの小瘤が存在しない。以上のことより、原記載でパラタイプとして記載された HUMZ 105476 の標本は、現在パラタイプとして登録されている HUMZ 105476 の標本とは別の個体であることが分かった。

ホロタイプおよび残りの 7 パラタイプを調査したところ、全て原記載に示された体盤幅と一致し、HUMZ 105476 の写真個体と一致する標本は含まれていなかった (今村氏, 私信)。原記載で使用された HUMZ 105476 の個体の所在は不明であり、紛失した可能性が高い。したがって、現在 *Dasyatis izuensis* のパラタイプとして北海道大学に登録されている HUMZ 105476 の個体はイズヒメエイではあるが、パラタイプではない。

■ 比較標本

イズヒメエイ: HUMZ 105476?, パラタイプ?, 1 個体, 体盤幅 465.0 mm, 静岡県沼津市内浦湾?, 1985 年 9 月 12 日?

■ 謝辞

本研究を行うに当たり、比較標本の借用許可とタイプに関する調査をして下さった北海道大学水産科学研究院の今村 央博士と鹿児島湾の標本採

集にご協力下さった折田正二氏をはじめとする折田水産の皆様へ深謝する。標本の作製や登録を手伝って下さった鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの伊東正英氏、高山真由美女史、原口百合子女史に厚くお礼申し上げる。本原稿に対し適切な助言を下さった鹿児島大学大学院水産学研究所魚類分類学研究室の松沼瑞樹氏、目黒昌利氏ならびに鹿児島大学水産学部の山下真弘氏に感謝する。

■ 引用文献

- 青沼佳方・吉野哲夫. 2000. アカエイ科, pp. 177-182, 1449. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定 第 2 版. 東海大学出版会, 東京.
- Aonuma, Y. and T. Yoshino. 2002. Dasyatidae, pp. 177-182, 1448-1449. In T. Nakabo (ed.), Fishes of Japan with pictorial keys to the species, English ed. Tokai Univ. Press, Tokyo.
- Compagno, L. J. V. and T. R. Roberts. 1984. Marine and freshwater stingrays (Dasyatidae) of West Africa, with description of a new species. Proc. Calif. Acad. Sci., 43 (18): 283-300.
- 西田清徳. 2001. アカエイ科, pp. 141-142. 中坊徹次・町田吉彦・山岡耕作・西田清徳 (編), 以布利 黒潮の魚. ジンベイからマンボウまで. 海遊館, 大阪.
- 西田清徳. 2006. アカエイ科, pp. 58-61. 岡村 収・尼岡邦夫 (編), 日本の海水魚, 第 3 版. 山と溪谷社, 東京.
- Nishida, K. and K. Nakaya. 1988. *Dasyatis izuensis*, a new stingray from the Izu Peninsula, Japan. Japan. J. Ichthyol., 35 (3): 227-235.
- Nishida, K. and K. Nakaya. 1990. Taxonomy of the genus *Dasyatis* (Elasmobranchii, Dasyatidae) from the North Pacific. NOAA Tech. Rep. NMFS, (90): 327-346.
- 吉満啓介・山口敦子. 2004. 有明海で採集されたイズヒメエイ. 板鰐研究会報, (40): 41-43.